



令和2年度 若手教員〔初任者〕研修講座（小学校）

茨城県教育研修センター 教育相談課 ☎0296-78-3219

【本研修の目的】 実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させ、主に基礎的・基本的な資質・能力の向上を図る。

【受講者数】 前期158人

来所による研修再開！



茨城県教育研修センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン（動画配信等）による研修を進めてきましたが、6月10日（水）の若手教員〔初任者〕研修講座（小学校）第3日前期より、感染防止対策を徹底しながら、来所による研修を再開しました。

本研修では、教員が身に付けたい基本的なソーシャルスキルや保護者との信頼関係づくりの進め方について学びました。その一部に、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた対応についても取り入れました。

3密を避け、ソーシャルディスタンスを確保しながら、熱心に講義を聴き、演習に取り組む受講者の姿が見られました。

○講義・演習「教師のためのソーシャルスキルトレーニング」



ソーシャルスキルとは、“人付き合いのコツ”という意味です。ソーシャルスキルが身に付いていないため人間関係が適切につくれないという指摘があり、学校において「ソーシャルスキルトレーニング」と呼ばれる手法で、スキルを補う必要があると言われています。そこで、児童生徒を指導する教師がまずソーシャルスキルを身に付けるため、4つのスキル「オープンマインドスキル」「傾聴スキル」「『私』メッセージスキル」「コーチング会話スキル」について学びました。

演習では、ロールプレイを通して、4つのスキルを使って、よりよい関わり方について話し合いました。受講者同士が交流を深めながら、演習を進めることができました。

○講義・演習「保護者との信頼関係づくりの進め方」

午後は、保護者との信頼関係づくりの進め方、保護者との信頼関係を構築するための適切な関わり方について学びました。

講義では、保護者はよきパートナーであり、信頼関係を築くためには相互理解・共通理解が鍵であることや、具体的な関わり方について考えることができました。

演習では、午前を引き続き3つの事例についてロールプレイを行いました。保護者との信頼関係を築くための言葉がけや態度について話し合い、よりよい対応の仕方について、考えを深めることができました。

